

弾家が、靴工場もあった亀岡町1丁目14番地の屋敷を、いつ引き払ったかは定かでないが、大正2年(1913)の時点で、その屋敷を取得し、居住していた人物がいたことを示す、資料が出てきたので、先ずその報告からしておきたい。

さてその資料とは、地元新聞社発行の『浅草人物史』(大正2年刊・実業新聞社)である。私が開館以来、運営協力員をやっている台東区立下町風俗資料館で発見されたものだが、台東区立中央図書館の郷土資料室にも、収蔵されていたことは確認されている。大正初期の浅草紳士録とあっては、興味尽きない希少本である。

### 浅草区議員 八田浪之助君

性温厚にして敏捷、常に自己の胸中を披瀝して腹蔵する所なく接して以て快感を与へしむるもの、浅草区議員八田浪之助君となす君は埼玉県の豪農大森清右衛門氏の三男明治元年六月を以て生れ、後八田姓を冒す、幼より父母の教えを守り徒らに戯嬉する童輩とは其の選を異にし伶俐を以て称せらる、明治十八年志を決して東都に出で実業界に身を投じて刻苦精励する事数年二十二年大木商店を経営し皮革製造に従事し斯界に貢献せる事少からず爾来業務の発展に伴ひ、三十五年三河島に製革工場を設け、又輸入品防遏の目的にて八橋合名会社を組織し四十年寺島村に合資会社

寺島屠獸場を起し何れも好成績を挙げ、君又末広株式会社、江東巡航株式会社の監査役を始め二三会社の要職に在り、君が此に成功を成する迄の間には幾多の失敗を演じたる困難の有様は言はん方なし実に人の成功は梅花の如しとかや公人としては三十五年浅草区議員浅草区学務委員に選ばれ今日に至る区政刷新の為に尽瘁す、今や浅草北部の柱石として声望隆々たる故なきにあらざる君の如きは模範的人材といふべきなり、内助の功ある夫人をさた子と呼び一男二女あり、家庭の和氣霽々として春風の薫ずるが如く長男久兵衛氏は京華中学出身にして毫も浮華あるなく温雅の青年なるにも拘らず公共事業を好み松山伝十郎と図り浅草青年会を起し其幹事長となり尚其の青年雑誌に主筆となりて力を尽しつゝ、あり前途尚ほ春秋に富む君将来は奈何に飛躍を試むるや吾人は括目して待たんとす、希くば益々健在なれ。

(浅草区亀岡町一丁目十四番地)

(この項続く)

